



大切にしたい「地域のつながり」

町田市の北部に位置し、多摩丘陵の原風景を残す自然豊かな忠生地区。ここで長年にわたり楽しんで地域活動を続けている方がいる。齋藤彰さんが活動を始めたのは約35年前。気の合うゴルフ仲間と「ゴルフ以外で地元のために何かやりたいね。」と話し合い、地域に豊富にある竹を使って炭を作る活動を始めたのがきっかけ。最初に軽い気持ちで始めた活動は、「竹炭づくりを体験させたい。」という青少年健全育成地区委員会（以下、青少健）の声から子どもたちとの関わりが始まり、そこから長年にわたり青少健の委員を務め、現在は小山田地区の会長を

約10年務めている。

子どもたちが思い切って遊べる場が少なくなった今だからこそ昔ながらの遊びが自由にできる場を、との思いから開設された小山田桜台の谷戸池公園の冒険遊び場に青少健として関わり5年になる。多い日には100人近く集まる子どもたちの居場所となっている。子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を温かく見守る姿は笑顔満面だ。

他にも3年ぶりの開催に向けて準備を進めている子どものマラソン大会や、小山田緑地の昔ながらの田園風景を残す活動など、「色々やって忙しいです。」と楽しそうに笑う。

「じっとしているのが好きではないので、元気なうちは活動を続けていきたいですね。それが少しでも地域の貢献につながれば嬉しいです。」

活動を続ける秘訣は、「無理せず楽しく続けること。初めて活動した方から楽しかったと言ってもらえることが何よりも嬉しいです。」とのこと。「活動を通して多くの方と知り合えたのが一番の財産。人と人の輪を大切に、やるなら楽しく！」

齋藤さんの子どもたちの笑顔をつなぐ活動はこれからも続いていく。



谷戸池公園冒険遊び場で活動する皆さん。いつも明るく楽しく子どもたちと過ごしている。



地域で行うじゃが芋掘り。じゃが芋だけでなく、バッタやトカゲにも遭遇。みんなで和気あいあいと参加する。



小山田子どもマラソン大会では大勢の小中学生が道路を走る。

みんなのみなみ —新たな出会いここにある—

町田市の南にあり、毎日大勢の人で賑わう南町田グランベリーパークがある南地区。2015年の南地区協議会設立以来、地区協議会の役員として長年尽力されている方がいる。代表の長谷川義剛さんと事務局長の須藤晏男さんだ。

お二人とも地域活動への関わりは仕事のリタイアがきっかけ。「会社員時代は忙しく全くそれどころじゃなかった（笑）。定年退職して時間に少し余裕が生まれたときに当時の町内会長に推薦され、町内会の役員をやることになりました。」と両氏は顔を見合わせ



通学時の子どもの見守り活動の様子。



南地区協議会で活動する須藤さん（左）と長谷川さん（右）。

て笑う。町内会では会長として防災訓練や町内を歩くパトロールなど、横のつながりを大切にした防災・防犯活動に力を入れている。

長谷川さんが地区協議会の事業で特

に印象に残っているのは、地元の企業や趣味のサークルなど30以上のパリエティに富んだ団体が一堂に会した地域交流事業「南カフェ」。「知らない人とも知り合えて地域のつながりが深まりました。コロナで中断していますがまた再開したいですね。」

地域活動を続ける須藤さんの原動力は、「人が好き。誰でも気軽に話せる地域にしたい。」というもの。今後は、様々な団体や今まで地域活動に関わっていなかった人が地区協議会に興味を持ってくれることに期待を寄せる。

「まず地区協議会の活動を知ってもらうための広報活動を積極的に行って、私たちがそろそろ引き継いでいきたいですね。『ワクワクするまち』をテーマに話し合った2022年12月の地区別懇談会では70名を超える多様な方が集まり、改めて南地区の底力・潜在力を感じました。新たな地域活動の担い手がどんどん出てくると嬉しそうですね。」

新たな出会いが溢れている南地区協議会の活動はこれからも続いていく。



地区協議会が協賛した南カフェ。南地区を中心に活動する多くの団体が参加した。